



表紙 舞妓 黒田清輝筆

解説は26ページ参照

題字デザイン・桑山弥三郎

もくじ

自由の足跡……………	安嶋 彌…………4
国立国際美術館の開館……………	村田慶之輔…………6
第一回全国高等学校総合文化祭を終わって……………	千葉県教育庁文化課…………8
東南アジアとの文化交流をめぐって(二) ——チェンマイで行った二つの話——	鈴木 一郎…………12
美術品交流のあり方を探る ——日米文化教育協力合同委員会に出席して——……………	伊藤 延男…………16
〔解説資料〕 「津市地鎮祭」の最高裁判所の判決について……………	文化庁文化部宗務課…………17
文化庁ニュース	
第4期著作権審議会発足 ——会長に稲田清助氏を再選——……………	21
文化庁長官に犬丸直氏就任……………	21
指定文化財展示取扱講習会の開催……………	21
第22回文化財修理技術者講習会……………	22
京都国立博物館秋季特別展『日本の黎明』 ——文化にみる日本の東と西によせて——……………	23
我が県の文化行政	
奈良県の文化財行政……………	杉田 善胤…………24
文化財目録を刊行して……………	山口正次郎…………27
〔紹介〕	
ギリシャの文化財保護法……………	児玉 嘉之…………28
文化庁への便り……………	29
美術館・博物館・文化施設めぐり⑤ 古美術品の根津美術館……………	30
国立劇場ニュース……………	31

第一回全国高等学校

総合文化祭を終わって

一 打ち上げ成功

七月三十一日から八月三日までの四日間におたる第一回全国高等学校総合文化祭が終わって、ほぼ一週間、ようやく緊張と疲れのとれた現在、この素晴らしい企画の第一回開催という重責をともかく果たし、第二回開催である兵庫県に引き継ぐことができた喜びをしみじみ感じている。

去る五月一日付で本県文化課長として着任した私は、この大事業の開催にいささか面喰らったが、その後担当係を中心に準備を進め、七月に入ってから文化課職員三〇人がそれぞれこのための様々な事務を分担する体制をとり、準備に没頭した。先例のないはじめての事業、限られた時間と予算。このような制約はあったけれど、多くの人々の協力に支えられてできるだけこの

千葉県教育庁文化課



千葉県文化会館における開会式

とはやったという気持ちで七月三十一日の開会式を迎えた。当日は連日の晴天がそのまま続き、朝から暑い日であった。開会式を担当する県内の高校の音楽担当の先生方や準備委員の高校生諸君と同様文化課の全職員は日曜日返上で会場の県文化会館に午前八時半に集合した。私が文化会館近くに着いた頃には既に駐車場係りを引き受けた当

課の職員がてきばきと車の整理を行っており、文化会館には多くの先生、職員、生徒達が担当係ごとに集まってリーダーの指示を受けていた。会場の大ホールでは歓迎演奏のリハーサルが始まり、ホール前のロビーでは合同演奏を行う県内四校の合唱クラブ生徒が美しいハーモニーを響かせ、プラカードを持った女性徒が整列を行っていた。開会式直前の準備は着々進行していた。心配は唯一つ、しかもそれはある意味では開会式を盛り上げるための最大のポイントである大ホール（一、七九〇人収容）への観客の入りとなった。しかし午後二時、安嶋文化庁長官をはじめ、千葉県知事、千葉市長等の来賓を舞台へ御案内した頃には場内はほぼ満席となり、若々しい熱気に満ちていた。舞台狭しと陣どったブラスバンドと合唱団。高らかに響き渡るファンファーレと共に「歓杯の歌」の大合唱に乗って、演目ごとにブルー、黄色、ベージュ、ピンクに色分けられた九十校に上る出場校のプラカード入場が始まった。開会式は順調に滑り出し、序々に盛り上りをみせながら進行していった。

このようにして始まった第一回全国高等学校総合文化祭は、文化会館における演劇（八月一日、市民会館の音楽（合唱、吹奏楽、邦楽（八月一日））に出演者だけで九十三校三、九〇〇

人の高校生の参加を得て若々しい伸びやかな躍動のうちに無事終了した。この成功は、文化のインターハイともいべき総合文化祭という素晴らしい企画を実現せたいと願う多くの人々がまさに「小異を捨てて大同につく」という協力の精神により努力したたまものであると身をもって感じた。私個人にとっても素晴らしい体験であり、協力して下さったたくさんの人々に感謝の気持ちでいっぱいである。

以下、本文化祭の開催に関し、本県がその開催を決定し、準備にとり組むまでの経緯を当課石井主幹に、本格的な準備に入ってから状況及び苦心を糸賀係長に記述してもらうこととする。

（文化課長 長谷川正明）

二 開催県としての態勢づくり

本年度の予算編成も大詰に近づいた昨年十二月、文化庁から、八月に予定している高校演劇研究大会に音楽・邦楽などの全国大会を加えて高校総合文化祭（演劇・音楽・邦楽祭）として開催することを計画してほしい、という依頼があった。既に、県の新年度事業計画の立案を終え、予算査定が進行中であり、しかも文化庁のこの行事に寄せる期待並ならぬことを知り、当惑と大きな不安を感じながら事務的な検討を開始した。

明けて一月半ば過ぎ、政府予算案が決定し、文化庁予算の目玉商品のひとつとして高校文化祭の構想が発表された。予算案決定の日に当時の柳川文化庁次長にお目にかかり、高校文化祭が名実共に文化のインターハイとして、育つよう努力したい、そのためには第一回の開会式を盛大かつ有意義な行事にしてほしい、など大いに激励していただいた。このお話を報告した頃から、漸く庁内に新年度の重要事業としての高校文化祭がクローズアップされてきた。

一月末、復活要求の段階で追加して要求した高校文化祭関係の県予算の内示があり、本格的に準備を進めることとなった。各関係団体との公式の協議に入り、全国組織の団体に対しては文化庁にお願いし、県の当事者としては県内諸団体との協議を積極的に行った。二月上旬から三月中旬まで、県議会や年度末行事の日程をぬって、高校長協会、高校教育研究会音楽部会、各芸術文化団体などの会議に出席したり、関係者を招いたりして、高校文化祭開催の趣旨、経緯を説明し、協力を要請するとともに開催についての意見を聴取した。

これら一連の協議においては、一部に時期尚早論も聞かれたが、各団体とも第一回全国高校文化祭の開催県となることの意義を深く認識し、その成功のために全面的に協力することが表明された。特に、音楽担当教員をはじめとする高

校教育関係者の積極的な対応が目立ち、この行事は高校教育の一環として行われるべきであり、高校教員が主体的に参画し、運営に当たろう、という共通理解が形成され、このことがその後の企画・運営の基調となった。また、将来的にはこの文化祭の実施に当たるべき高等学校文化連盟のような組織づくりの促進が強く要望された。

一方、高校演劇関係者との協議を進め、高校演劇研究大会を新しい企画による高校文化祭の一環として実施すること、これに伴い、開会式など既に内定していた日程の一部変更などの調整を行った。

三 開催計画の調整と実行委員会の設置

以上の経過の中で得られた各関係者の意見をふまえ、文化庁の指導を受けながら開催計画の調整を進め、その集約整理のために三月二十八日、中央及び県内の各関係団体代表者等による準備会議を開催した。この会議で、開催計画と

実施組織の大綱について意見の一致をみたが、その要点は次のとおりである。

①名称 今回は演劇と音楽関係の行事に限られるが、近い将来、美術・工芸・書道等の部門の加わることを期待して、「第一回全国高等学校総合文化祭」とする。

②主催、後援、協賛(略)

③期日、会場 既定の演劇研究大会の時期に各部門の行事を集中的に実施するため、七月三十一日から八月三日までの間、千葉市(県文化会館、市民会館その他)で開催する。

七月三十一日には、総合開会行事として、開会式、歓迎演奏、記念パレードを行う。

④内容(部門) 演劇、合唱、吹奏楽、邦楽及びマーチングバンドについて実施する。参加希望があれば、合唱にオペラ、吹奏楽に交響楽、邦楽に詩吟、人形浄瑠璃などを加える。演劇は既定計画どおりコンクールとするが、他の部門はコンクール形式をとらないこととする。(マーチングについては関係団体の意思決定前であったので、当日は決定を保留した。)

⑤出演校 演劇(地区代表十一校決定済)及びマーチングバンドを除き、各都道府県教育委員会に推せんを求める。

⑥実施組織 県教育長を長とし、中央及び県内の各関係団体代表者、県及び千葉市の関係行政機関代表者から成る実行委員会を設置する。



人形浄瑠璃を熱演

四月、新年度とともに、この大綱に基づいて具体的な事務が始まった。年度末異動により係長が交替したが、担当の文化振興係は一名増員されて係長以下三名となり、意気すこぶる盛んで、開催要項等の正式決定、各県への出演校推せん

の依頼などを経て、五月十日には実行委員会の発足をみるに至った。

(文化課主幹 石井 清)

四 運営状況と今後の課題

(1) 二五県から九三校が出演の催しであり、出演経費を主催者において負担できないという条件の中で、果たして何校の出演校があるかが、関係者の最大に関心事であった。

演劇部門については、昨年度実施した全国高

等学校演劇コンクール地区予選において優秀な成績をおさめた一校(一〇県)の出演が早々に決定していたが、音楽部門については、各県から優秀校の出演を求めることとし、各都道府県教育委員会に対して推薦方を依頼した。その結果、合唱の部には一四県から一五校、吹奏楽の部には九県から一二校の推薦があった。邦楽の部については、都道府県教育委員会からの推薦は五校に過ぎなかったが、日本三曲協会からも推薦があり、また、兵庫県立三原高等学校に人形浄瑠璃の特別出演を依頼した結果、一一県から四一校が出演することになった。更に日本吟剣詩舞振興会からも参加の申し入れがあったので、特別参加「吟詠の部」を設け、五県から七校が出演することに決定した。マーチングバンドの部については、全日本マーチングバンド連盟に出演校の推薦を依頼し、連盟も出演校の選定・確保に積極的に取り組んでくれたが、各種の悪条件が重なったため、七県から七校が出演するにとどまった。

こうして、開会が間近に迫った七月上旬になって、ようやく二五県から九三校の出演が確定し、関係者一同ほっとしたが、いくつかの問題点が残された。

合唱、吹奏楽の部についても更に多くの学校の出演が望まれるし、邦楽についても出演校が多いわりには、地域的片寄りや単曲偏重の傾向

がみられた。

また、出演校の推薦・選定のあり方も今後に残された大きな課題の一つである。今回の場合、コンクール方式で行われた演劇部門は、前年度に出演校が決定しており、フェスティバル方式をとった音楽部門については、一部は都道府県教育委員会の推薦、一部は都道府県教育委員会と関係団体の推薦、更に一部は関係団体のみによる推薦という形で出演校が選定されたが、このように各種の方法をとることは、各都道府県において、出演校の派遣経費に関する予算措置をするうえでも問題がある。より多くの県からより多くの出演を得るためには、全国高等学校総合文化祭をコンクール方式で行うのか、それともフェスティバル方式に徹するのか、その性格づけを明確にするともに、出演校の推薦・選定についても統一した方式をとるようにすべきではなからうか。

(二) 高校の教員・生徒主体に運営

全国高等学校総合文化祭を開催するに当たって企画・運営の主体をどこに置くかが大きな課題の一つであったが、高校生による文化の祭典であることを踏まえて、大綱については、実行委員会の会議において協議決定するが、具体的な立案や実際の運営は、県内の高校教員と高校生が主体となつて行うこととした。すなわち、演劇部門は、演劇クラブ顧問の教員と演劇クラ

ブ員の生徒が、音楽部門は、音楽担当教員と音楽関係クラブ員である生徒がそれぞれ担当し、開会行事の運営についても、これら高校の教員と生徒が役割を分担した。

また、ポスター、プログラムの作成について美術担当教員の協力を得たほか、養護教員の協力を得て、当日の救護体制に万全を期した。

しかしながら、邦楽及びマーチングバンドの部門の企画・運営については、県内の高校におけるこれらの組織が不備なため、日本三曲協会、全日本マーチングバンド連盟等の関係者の絶大な協力のもとに進められた。また、広報等の面では、各種関係団体関係者に多くの支援をいただいた。

このように、一部関係団体関係者の協力を得たものの、高校の教員と生徒が企画・運営の主体となったことは、本県の高校における芸術文化活動の振興のうえにも大きく寄与したのではないかとと思われる。

ただ、今回の場合、準備期間が短かったため、事前の打合せや各部門間の相互調整を十分に行うことができなかったことが悔やまれる。

五 高等学校総合文化祭の発展を期待する

八月三日、千葉県文化会館では、演劇コンクールの表彰式が行われ、千葉市民会館では、特別出演の人形浄瑠璃の熱演の後、参会者全員に

よる「ほたるの光」の大合唱のうちに、第一回全国高等学校総合文化祭の幕は閉じられた。

時間もなく、経費も豊かでないという厳しい条件の中ではあったが、関係者の熱意と協調により、幾多の問題を残しながらも、出演者、観客合わせて九、〇〇〇名が参加し、一応の成果をおさめて、第一回全国高等学校総合文化祭は無事終了した。この千葉大会が、全国高等学校総合文化祭の土台づくりの一助にはなり得たのではないかと確信し、関係者一同ひとそな喜びに浸っている。

第二回の全国高等学校総合文化祭は、明年七月下旬または八月月上旬、兵庫県において開催されることと決定した。第一回の成果と課題を踏まえて、更に改善が加えられ、全国各地からより多くの高校生が参加し、芸術文化活動の各分野にわたって、日常活動における成果を発表しあうとともにお互いの友情を深めることのできる、名実共に全国規模の高校生による総合的な文化の祭典として発展することを念願している。そしてまた、この祭典が、国民ひとりひとりが積極的に芸術文化活動に参加し、心豊かな生活の実現を図るうえでも大きな役割を果たしていくことを期待したい。

(文化振興係長 糸賀茂夫)

編集後記

○芸術文化の秋にふさわしく、十月中旬に四つめの国立美術館として国立国際美術館が大阪の万国博覧会跡地に開館する。日本の美術と世界の美術の相互交流の歴史と現状を教育的に理解させることを主たる目的としている。同館の村田学芸課長に詳しく、美術館の目的や性格を書いて頂いたが、児童生徒の団体鑑賞等が期待される。

○初の高校文化祭が千葉県で開かれ、県教育委員会を始め、出演の高校などの協力により大成功を取めた。この経験が生かされ来年以降増々発展し、さらには将来、国民的な行事へ成長することが期待される。

(K)

広告の問合せ・申込み先

株式会社 きょうせい 営業課
TEL(03)二六八一二四一(代表)

「文化庁月報」 十月号

(通巻第一〇九号)
昭和52年10月25日印刷・発行

編集文化庁

〒100 東京都千代田区霞が関3丁目2番2号
発行所 株式会社 きょうせい

本社 〒100 東京都中央区銀座7丁目4番12号
営業所 〒105 東京都港区西五軒町52番地

電話(03)二六八一二四一(代表)

振替口座 東京 九一六一番

印刷所 ㈱行政学会印刷所

定価・一五〇円(送料二九円)
年間購読料 一、八〇〇円